

英語科学習指導略案

日 時 令和4年7月13日(水)1校時

対 象 第1学年E組

場 所 第3学習室

1 単元(題材)名

You Can Do It! ①

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・プロフィールから、出身地・誕生日・趣味・好きなことやしたいことなどの情報を正確に読み取ることができる。	・それぞれの共通点・相違点を見つけるために、6 人の中学生のプロフィールを読んで、内容を適切に理解している。友達に自分のことを知ってもらうために、伝えたいことを整理して適切に自己紹介をしている。	・それぞれの共通点・相違点を見つけるために、6 人の中学生のプロフィールを読んで内容を理解しようとしている。

3 展開 (全2時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	6 人の中学生のプロフィールを読んで内容を理解し、それぞれの共通点・相違点を見つける。 ★【問いの工夫】「動名詞を活用して、自分のことを友達に知ってもらおう。」 ★【活動の工夫】グループごとに内容を発表し、動名詞の使い方や、英語表現の工夫について理解を深める。
2 (本時)	グループで自己紹介をし合い、お互いの共通点・相違点を見つける。 ☐ 自己紹介の内容を考えてメモを作る。 ☐ 友達を自己紹介し合い、自分との共通点・相違点をメモする。 ☐ 活動後に自分で内容をまとめる。

4 本時の展開

ねらい:動名詞を活用して、自分のことを知ってもらおう。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	○Greeting ○Sing a song ○Q and A 個	・日常生活でよく使う Q を用いて、答えやすいようにする。	
展開 (30分)	○Reading ・6人の中学生のプロフィールの確認をする	・間違いやすい表現に注意させる。 ・グループ活動を行い、理解を深める。	【知・技】 プロフィールから、情報を正確に読み取ることができるか。(プリント)
	動名詞を活用して、自分のことを友達に知ってもらおう。		
	○Writing 個自己紹介のメモを作る。 ○Speaking 集友達と自己紹介をし合う ○まとめ 個自分との共通点・相違点を書き留める ○発表 クラス全体で情報を共有する	・メモすることで、自分の意見を明確にしたり、動名詞を意識して使用したりさせる。 ・普段話す機会のない友達とペアを作り、情報を交換させる 良かった点を認め合うように声をかける。 ・自分と友達との共通点・相違点を考え、お互いを理解し、自己紹介の内容をまとめる。	【思・判・表】 自己紹介のメモを作り、伝えたいことを整理して自己紹介をすることができるか。(プリント)(観察)
終末 (10分)	○振り返り 個本時の目標について、フィードバックシートを記入する	・単なる感想にならないように助言する。	【思・判・表】 動名詞の活用、自己紹介の両面について振り返ろうとしているか。(プリント)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

音楽科学習指導略案

日 時 令和4年 6 月 2 日(木)2 校時

対 象 第 1 学年 E 組

場 所 第2音楽室

1 単元(題材)名

「音楽によって喚起されるイメージを伝え合おう」(教材「動物の謝肉祭」より)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
自分が感じたイメージと音楽的要素を正確に結びつけることができる。	自分の感じたイメージを具体的にもち、言葉で表現することができる。	自らすすんで鑑賞し、そこから感じたイメージを主体的かつ具体的にワークシートへ記入したり、発表したりしている。

3 展開 (全2時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○音楽がイメージにつながる時の要因が音楽的要素であることを知る。 ○音楽的要素の種類を知る。 (リズム、音程、強弱、音色、拍子、速度、ハーモニー、形式、構成、テクスチャなど) ・様々な音、音楽を聴いてその中に含まれる特徴的な音楽的要素を伝え合う。個 集 ★【問いの工夫】「音楽から受けたイメージを言葉にしてみよう」
2 (本時)	○様々な音楽からイメージをもち、そのイメージがどのような音楽的要素によるものか伝え合う。 ・前回の学習内容について復習し、音楽的要素にはどのようなものがあるか確認する。 ・様々な音楽を聴き、イメージされるものとその理由を伝え合い、共有する。個 集 ・この題材における学習の振り返りを書く。個 ★【活動の工夫】音楽的要素(知識)を知り、その知識を活用してイメージ(思考)し、言語化して表現するという順序で進めることで、今後の音楽鑑賞をより充実させる力を養う。

4 本時の展開

ねらい：音楽的要素を理解し、音楽によって喚起したイメージを、音楽的要素を用いて伝え合う。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	○正しい姿勢(既習)で校歌を歌う。 ○前回の既習事項である音楽的要素の種類を確認する。		
展開 (30分)	○イメージをつくる。 個「動物の謝肉祭」より各楽曲(①～③)を聴いて、楽曲から喚起されたイメージ、そのイメージに結び付く音楽的要素をワークシートに記入する。	・ワークシートに記入する様子を観察し、個別に補助が必要な生徒への支援を心掛ける。	
	自分の感じ取ったイメージを音楽的要素と結び付けよう。		
	○音楽的要素について考える。 集楽曲ごとに喚起されたイメージとそのイメージに結び付く音楽的要素を発表し、共有する。 ①「ライオン」 (予想されるイメージ→音楽的要素) ・堂々としている→2拍子 ②「白鳥」 ・優雅な感じ→音色、リズム ③「カンガルー」 ・小さい動物が跳ねている→リズム、速度、強弱	・多くの生徒に記入内容を答えさせることで、自分と周りのイメージ共有を促す。	【知・技】 どのような音楽的要素があるか理解している。(観察) 【思・判・表】 自分のもったイメージを音楽的要素と結び付けて考えようとしている。 (ワークシート)
終末 (10分)	○振り返り ・本時の学習内容を振り返り、気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。個		【思・判・表】 音楽的要素ごとに受けるイメージについて考えようとしている。 (ワークシート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

家庭科学習指導略案

日 時 令和4年11月10日(木)2校時

対 象 第1学年C組

場 所 被服室

1 単元(題材)名 日常食の調理

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・日常生活と関連付けて、用途に応じた食品の選択を理解しているとともに、適切に選択できる。 ・食品や調理器具などの安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	・日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 展開 (全6時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1 (本時)	○おいしさと調理 ☐ ☒ ☐ ★【問いの工夫】「おいしさとは何で感じているのか考えてみよう」 ★【活動の工夫】視覚と嗅覚を遮断した状態で飴を味わった後、どのように感じたかを共有して、「おいしさ」は何で感じているのかについて個で考えをまとめる。
2	○調理の計画 ☐ ☒ ★【活動の工夫】互いの包丁の使い方を観察させ、安全な使い方を理解する
3	○好きになる野菜の調理 ☐ ・野菜の特徴や選び方を理解する
4	○好きになる野菜の調理 ☒ ・野菜の調理実習を通じて、基礎的な調理の仕方について知る。
5	○ますます好きになる肉の調理 ☐ ★【活動の工夫】動画を見て、肉の調理上の特徴を考え、調理時の注意点を理解する。
6	○ますます好きになる肉の調理 ☒ ・肉の調理実習を通じて、加熱調理の仕方について理解し、実践する。
7	○こんなにおいしい魚の調理 ☐ ・野菜の特徴や選び方を理解する。
8	○こんなにおいしい魚の調理 ☒ ・野菜の調理実習を通じて、調理計画や課題の設定、解決する力を身に付ける。

4 本時の展開

ねらい：・おいしさについて考え、まとめることができる

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (7分)	○今後の活動の説明 ・調理実習に向けてのルールを確認する。	・安全にかつ協力して実習が行えるようにすることを意識させる。	
展開 (38分)	「おいしさとは何で感じているのか考えてみよう」 ○「おいしさ」を考える。 個 「おいしさ」とは何で感じているのかを考え、記入する。 集 班で発表し、意見を共有する。 ○飴の実験 飴の実験について説明する。 目をつむり、鼻をつまんだ状態で、飴を味わわせる。 ○「おいしさ」について知る。 「おいしさ」について教科書で確認をする。 個 実験を振り返って考察する。 集 班内で共有する。	・記入が進まないようであれば、補助発問をする。 ・食物アレルギーは事前に確認するとともに、授業内でも注意するよう指示をする。 ・2人程度発表させる。 ・意見の付けたしがあれば記入するよう促す。	【思・判・表】 「おいしさ」について考え、記入しようとしている。 (ワークシート)
終末 (5分)	○振り返り 個 自分の考察結果と班内の考えをもとに、「おいしさ」について振り返る。 ○次時の予告を行う。	・次回、必要なものを確認させる。	【思・判・表】 「視覚」・「嗅覚」など「味覚」以外からも実験を考察することができる。(ワークシート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

技術科学学習指導略案

日 時 令和4年7月12日(火)4校時

対 象 第1学年B組

場 所 1年B組教室

1 単元(題材)名

材料を利用するための技術

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・材料と加工の技術についての基礎的な知識を理解している。 ・生活や社会に果たす技術の役割を理解することができる。 ・製作に必要な、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	・製作するために必要な工夫を自らが考えている。 ・問題を見出し、課題を設定して解決できる。 ・より良い生活のために新たな発想をし、表現することができる。	・自ら進んで技能を身につけようとしている。 ・自分なりに考えてより良い製作ができるように取り組んでいる。

3 展開 (全4時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○けがきの役割と木材へのけがきの方法を理解することができる。 ○さしがねを正しく使用し、安全・適切にけがきができる。 ★【活動の工夫】さしがねについて使用したことのない生徒のために、動画をつかって説明した後、生徒同士で意見交換をすることで理解を深める。 ・さしがねを使用し、線を引く理由について考える。個 集 ・さしがねを使用し、線を引く。個
2	○材料を効率よく正確に切断する技術についての理解を深めることができる。 ○材料に適した切断方法を説明できる。 ・のこぎりの安全な使い方、使用上のルールを学ぶ。個 集 ・のこぎりを使用し、安全に切る。個
3 (本時)	○製作をするうえで製図が必要な意味を理解する。 ○製図のきまりを理解し、線の種類と用途を理解して、それぞれの線を書くことができる。 ・製作をするうえで製図が必要な意味を理解し、グループワークにより深める。個 集 個 ・線の種類と用途を理解し、それぞれの線を書く。個 ★【問いの工夫】身の回りで製図が必要なものを複数見つけ、どの部分に製図が必要なのかを説明してみよう
4	○第三角法による正投影図の書き方を理解することができる。 ○等角図を書くことができる。 ・正投影図、等角図を書く。個

4 本時の展開

ねらい：製作を行ううえで製図が必要な意味を理解する。

時 間	○学習内容・学習活動 ★【場面の工夫・問いの工夫】	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10 分)	○本時の目標を知る。 ○制作の実験 紙を一枚ずつもち、四つ折りして好きな角をはさみで切り取ると、全員が同じ形にならないことを体験する。	・形がばらばらになる理由を考えさせる。	
展開 (35 分)	身の回りで製図が必要なものを複数見つけ、どの部分に製図が必要なのかを説明してみよう。		
	○「製図」について考える。 個身の回りで製図が必要なものと、どの部分でそのように考えたかを記入する。 集なぜ製図を書く必要があるのか考えさせ、話し合い、発表を行う。 ・製図の必要性を説明した5分ほどの動画を見せる。 ○製図のきまりを理解する。 ・線の種類と用途を理解し、それぞれの線を書く。	・私たちの身の回りで使用しているものと関連させて、設計されていない理由を生徒自身に考えさせる。 ・できるだけ多くのアイデアや考えを出させ、共有する。 ・必要に応じて、補足説明を行う。 ・製図のきまりに従って書く必要性を理解させる。 ・用途に合わせた線を引く必要があることを伝える。	【知・技】 身の周りに目を向け、身の回りのものと設計を関連させて考えている。(ワークシート) 【知・技】 製図の必要性を理解している。(ワークシート) 【知・技】 用途に応じた線を引くことができる。(ワークシート)
	○振り返り 個製図の必要性和、なぜ製図にきまりがあるのかを振り返る。		【思・判・表】 製図や製図のきまりの必要性を説明しようとしている。(ワークシート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

国語科学習指導略案

日 時 令和4年 11 月 11 日(金)3校時

対 象 第1学年E組

場 所 1年E組教室

1 単元(題材)名

「それだけでいい」 杉 みき子 (『現代の国語 1』三省堂)

2 単元(題材)の目標

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。	・詩の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	・進んで詩の構成や展開、表現の効果を抑え、学習課題にそって考えたことを伝えあおうとしている。

3 展開(全2時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○詩の中の言葉を的確にとらえて、内容を理解する。 ・繰り返される表現を意識して、詩を音読する。個 ・山、海、星について「…だけでいい」といっている理由を考える。個
2 本時	○表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ。 ★【問いの工夫】作者がなぜこの言葉の配置にしたのかを考えよう。 ・第三連までと、第四連との共通点、相違点について考える。個 ・第五連が一行のみで表現されていることの効果について、交流する。個 ・作者がなぜこの言葉の配置にしたのかについて話し合う。個 集 ★【活動の工夫】個人で考えさせた後に四人グループで交流して考えることで、多様な見方や考え方ができるようにする。

4 本時の展開

ねらい:表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えを書く。

時 間	○学習内容・学習活動 ★【場面の工夫・問いの工夫】	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 評価方法
導入 (5分)	○本時の授業の見通しをもつ。 ・前回の授業の復習をする。 ・本時の目標を確認する。		
展開 (40分)	作者がなぜこの言葉の配置にしたのか、自分の考えをまとめよう。 ○表現に着目しながら読む。 ☐ 第一連から第三連までと、第四連を比べて、共通点・相違点について考える。 ☐ 第五連が一行のみで表現されていることは、どのような効果があるか考える。 ☐ 表現の特徴と効果について自分の考えをもつ。 ○意見の共有 ☐ 作者がなぜこの言葉の配置にしたのかについて話し合う。	・この後に、グループで作者の表現の工夫について話し合うことを伝えておく。 ・自分の考えとその根拠をノートに書かせる。 ・それぞれの考えを共有することで、さらに深めさせる。 ・4人グループで出た意見をホワイトボードに書かせ共有することで、視覚的に他のグループの意見がわかるようにする。	【思・判・表】 表現に着目しながら課題に取り組もうとしている。(ノート)
終末 (5分)	☐ 目標をもう一度確認し、学習のまとめを書く。		【思・判・表】 表現に着目しながら読めたか、表現の効果について自分の考えを書こうとしている。(ノート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

社会科学学習指導略案

日 時 令和4年10月 27 日(木)3校時

対 象 第1学年B組

場 所 1年B組

1 単元(題材)名

中世の日本 (ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。	・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 展開 (全8時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1 (本時)	武士の発生 個 集 ○武士の登場と学習の見通し、課題の設定 ★【問いの工夫】武家政権はどのように成立したのだろうか。 ★【活動の工夫】初めて武士が登場した状況と主従関係が出来上がった時の武士の様子を比べることで、具体的なイメージと見通しをもって学習に取り組ませる。
2	院政と平氏 個 ○院政の仕組みと平氏政権の特徴
3	鎌倉幕府の仕組み 個 ○源頼朝の政治
4	承久の乱 個 ○承久の乱の原因と結果
5	中世への転換 個 集 ○学習課題に対する自分の考えを話し合う。 ★【活動の工夫】武家政権が成立する中で、どの出来事とその後の歴史に影響を与えていたのかを話し合わせる。
6	モンゴル帝国の成立 個 ○モンゴル帝国の支配体制
7	元寇 個 ○元寇(文永・弘安の役)
8	元寇後の日本 集 ○元寇時の判断が短期・中期・長期で日本に及ぼした影響 ★【活動の工夫】北条時宗の判断が、その後の歴史にどのような影響を及ぼしたのか、自

	分の意見を話合わせる。 元寇の判断から学べることを考える。個 ○話し合ったことを基に歴史を学ぶ意義を考える
--	--

4 本時の展開

ねらい：武士の台頭から武家政権の成立、その後の広がりについて考えよう。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○導入 初めて武士が登場した状況と主従関係が出来上がった時の武士の様子を比べる。	・男衾三郎絵巻、以仁王の令旨から当時の武士の様子がどのように変化していったのか、推測させる。	
展開 (35分)	○学習課題の確認 武士が力をもつようになった要因について、年表を見ながら確認する。	・小学校までの学習内容を振り返りながら、要因を考えさせる。	
	武家政権はどのように成立したのだろうか。		
	○自分の考えをまとめる。 個 武士がどのような存在であったのか考え、武士自身はどのような政治体制を望むか予想する。 集 グループごとに予想を共有し、実際の政治体制について確認する。 個 年表から、その後の歴史に影響を及ぼしたであろう出来事を予想させる。 ・武士がもっている土地の管理方法について理解する。	・武士を中心とした政権はどのようなねらいがあったのか、予想させる。 ・学習の見通しをもてるよう助言する。 ・武士の立場や武士の役割について、資料を基に理解させる。 ・土地を介した主従関係について、権利という言葉を用いて、理解させる。	【知・技】 武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立したことについて理解している。 (ワークシート、観察)
終末 (5分)	○振り返り ・本時で学んだことをワークシートに記入する。		【思・判・表】 武家政権の成立から続く一連の歴史の流れについて考えようとしている。 (ワークシート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

数学科学習指導略案

日 時 令和4年9月19日(火)3校時

対 象 第1学年C組

場 所 1年C組教室

1 単元(題材)名

3章 1次方程式 1節 1次方程式 これからの数学1(数研出版)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・方程式とその解の意味を理解し、等式の性質や移項を用いて、基本的な1次方程式を解くことができる。 ・比例式の性質を理解し、それを用いて比例式を解くことができる。	・式変形の過程を考察し、方程式を解く手順を説明することができる。 ・方程式や比例式を利用して問題を解くことができる。	数学的活動の楽しさや良さを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善し、より良く問題解決しようとする態度を身に付ける。

3 展開 (全9時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○方程式とその解 $\boxed{\text{個}}$ $\boxed{\text{集}}$ ・方程式の解を代入して調べる。 ・方程式の解を表を用いて調べる。
2,3	○等式の性質 $\boxed{\text{個}}$ $\boxed{\text{集}}$ ・てんびんを考え、方程式の性質を考える。 ・等式の性質を用いて、方程式を解く。
4-8 (本時)	○1次方程式の解き方 $\boxed{\text{個}}$ $\boxed{\text{集}}$ $\boxed{\text{個}}$ ・移項を利用して方程式を解く。 ・かっこのある方程式を解く。 ・小数をふくむ1次方程式を解く。 ・分数をふくむ1次方程式を解く。 ★【問いの工夫】数当てゲームを用いて興味を引き出す。 ★【活動の工夫】グループごとに数当てゲームを行い、1次方程式とのつながりに気付くことで、解き方の理解を深める。
9	○比例式 $\boxed{\text{個}}$ $\boxed{\text{集}}$ ・比例式の性質を使い、比例式を解く。

4 本時の展開

ねらい:1次方程式の必要性を感じ、かっこのある1次方程式を解くことができるようになる。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○かっこを含んだ1次方程式の解き方を確認する。	例題にも挑戦させ、理解度を確認する。	
展開 (41分)	○かっこを含んだ1次方程式を解く。 ・p.107 問4 ○数当てゲームをする。 ・任意の数字から、教員が回答を導き出す様子を見せ、回答が合っているか確認させる。 ・どうして数をあてることができたのか方程式をたてて考える。	・検算を呼びかけ、解が合っているかどうかを確認させる。 ・最初に考えた数を忘れないようにさせる。 ・暗算ができない場合はノートに解かせる。 ・2章の復習、文字の表し方を改めて確認する。 ・方程式の必要性を実感させる。	【知・技】 かっこの中が計算できない場合はかっこを外して計算している。 (観察)(ノート)
	自分で1次方程式を作ってみよう。		
	・ <u>個</u> 自分なりの数当てゲームを作る。個人で自由に考えさせる。自分や友達が計算するときに複雑にならないようにする。 ・ <u>集 個</u> グループごと数当てゲームを行い、個人でゲームのもとになっている方程式を考えさせる。	・計算が複雑になりすぎないように注意する。 ・楽しいで終わることのないように、方程式をたて、解けるようにさせる。 ・生徒の理解度を把握し、学習進度を調整する。	【知・技】 数当てゲームを適切に作成している。また、数宛ゲームが1次方程式に基づいていることに気付いている。 (プリント)
終末 (4分)	○本時を振り返る ・個人で学習カードを記入し、自己評価をつける。		【主】 1次方程式について、わかったこと、わからなかったことを具体的に記入している。 (学習カード)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

美術科学習指導略案

日 時 令和4年10月27日(木)1 校時

対 象 第1学年D組

場 所 第一美術室

1 単元(題材)名

文字でイメージしよう

2 単元(題材)の目標

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・アイデアスケッチを描くことを通して表したいイメージを具現化することができる。	・文字の表す意味とイラスト表現が一致した絵文字の面白さや美しさを伝えるために、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。	・文字の表す意味とイラスト表現が一致した絵文字の面白さやよさを味わおうとしている。

3 展開 (全2時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○オリエンテーション 個 ・絵文字とは何かを知る ・学習の進め方を知る ○制作 個 ・アイデアスケッチにアイデアをまとめる。
2 (本時)	○グループ制作 集 ・アイデア共有 ○作品鑑賞 個 集 ・工夫した点を発表する。 ★【問いの工夫】「どんな工夫をすれば、文字がしゃべりだすのだろう」 ★【活動の工夫】互いの作品の工夫点を共有し、絵文字を構成する絵や書体の工夫の仕方を考えさせる。 ○アイデアスケッチを完成させる。

4 本時の展開

ねらい: 絵文字をつくるうえで大切なことは何かを考え制作する。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○前回までの振り返り	・安全に配慮しながら準備をさせる。	
展開 (35分)	○ねらいの確認	・アイディアの出し方、絵の組み合わせ方に注目させる。	
	どんな工夫をすれば、文字がしゃべりだすのだろう。		
	○スケッチ制作 個 前時までの制作状況を確認する。 集 グループごとに互いの作品を見合い、工夫する点を共有する。 ○発表 他グループの発表を聞き、作品を鑑賞する。	・工夫したところを説明できるように支援する。 ・必ず全員が制作に携わるよう指示する。 ・アイディアの出し方、絵の組み合わせ方、レタリングの重要性に気づかせる	【思・判・表】 文字の意味からイメージを膨らませ絵に変換できているか (作品、ワークシート) 【知・技】 ・制作に貢献しているか(観察、ワークシート)
終末 (10分)	○振り返り 個 絵文字を構成する絵や書体の工夫について振り返る。		【思・判・表】 各グループが制作した絵文字にはどんな工夫がされているかを踏まえて、自分の作品について考えようとしている。 (ワークシート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

保健体育科学習指導略案

日 時 令和4年10月24日(月) 5校時

対 象 第1学年D組

場 所 体育館

1 単元(題材)名

球技(バレーボール)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともにボールの操作や準備姿勢をとるなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようになる。	・攻防などのチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようになる。	・積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦や練習方法などについての話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとするができるようになる。

3 展開(全6時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○オリエンテーション 個 集 ・特性や成り立ち、安全について知る。 ・学習の進め方を学び見通しを立てる。 ○ボールトレーニング ★【問いの工夫】「バレーボールはなぜ3回で攻撃することが多いのだろう」 ★【活動の工夫】グループで考えを共有することで、レシーブ・トス・アタックそれぞれの役割があることに気付かせる。
2	○アンダーハンドパス・オーバーハンドパス 個 ・基本的な技術のポイントを知り、練習を通してボールを操作できるようになる。
3 (本時)	○チーム練習 個 集 個 ★【問いの工夫】「練習をもっと効果的に進めるために、どんな工夫ができるだろう」 ★【活動の工夫】提供された課題をより充実させる方法を考え、仲間と共に話し合わせ、実践させる。
4	○チーム練習 ○ルール・審判法 個 ・ルールについて知る。 ○ミニゲーム 集 ・学んだルールを活かしてグループ全員が同時に審判をすることで審判法を身に付ける。
5・6	○ゲーム 集 個 ・ゲームの中で互いにアドバイスをさせることで、技術を高める。

4 本時の展開

ねらい:チーム練習を工夫して、練習内容を充実させる。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○準備運動	安全に配慮させる。	
展開 (35分)	○ねらいの確認 ・アンダーハンドパス練習 ・オーバーハンドパス練習	・実技テストで課題を明確にさせる。	【知・技】 ボールを安定して操作できるか。(記録)
	練習をもっと効果的に進めるために、どんな工夫ができるだろう		
	○改善策を考える。 個「効果的、安全、平等になるような練習方法」を個人で案を考える。 集小グループで発表。その後、チームで練習方法を決めて、実際に行ってみる。 ○練習方法の共有 ・試したものを、他の班と共有し更に効果的な練習方法を見つける。	・多様な意見を受け入れ、出た案の練習方法をグループで試してみるように促す。	【思・判・表】 チームの課題を発見し、取り組み方を工夫している。(観察・カード)
終末 (5分)	○振り返り 個練習方法を工夫することでどのようなメリットがあったかについて考えさせる。	・運動量が増える事や、グループでの一体感が生まれる事など工夫をすることで様々なメリットがあることに気づかせる。	【思・判・表】 練習方法についての話し合いに貢献している。(カード)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

保健体育科学学習指導略案

日 時 令和4年10月31日(月) 5校時

対 象 第1学年C組

場 所 校庭

1 単元(題材)名

陸上競技(ハードル)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力を理解する。 ・リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。	・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようになる。	・積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人練習方法などについての話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとする、ことができるようになる。

3 展開 (全7時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○オリエンテーション ・特性や成り立ち、安全指導 ・学習の進め方 ○基本知識と技術の説明と解説
2	○振り上げ足と抜き足の基本技術の解説と実践 ○アプローチ(クラウチングスタートから1台目を加速して越える)練習
3	○リズムカルなインターバルと50m(5台)ハードル通し練習
4	○50m(5台)記録計測 ^個 ○フォームチェック ^個
5 (本時)	○50m(5台)ハードルの通し練習 ○自己と仲間のハードリングを動画撮影し、映像を見ながら課題を見つける。 ^集 ★【問いの工夫】「映像を見て、具体的な自己のハードリングの課題を見つけよう。」 ★【活動の工夫】どの局面《アプローチ・中間疾走(2～4台目)・フィニッシュ(5台目～ゴール)》に課題があるのかを画像を見ながら意見交換してを見つける。
6	○課題に基づいた個人練習 ^個 ○自己と仲間のハードリングの課題を見つけ、改善策を考える。 ^集 ★【活動の工夫】局面《アプローチ・中間疾走(2～4台目)・フィニッシュ(5台目～ゴール)》に分け、自己の課題がどの局面にあるか絞り、課題解決のための練習を考え取り組む。

7	○50m(5台)記録計測 ^個 ※2回目の評価 ○自己のハードリングの振り返り ^個 ※2回目の評価
---	---

4 本時の展開

ねらい:映像を見て、自己の課題を見つける。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○準備運動、ウォーミングアップ	安全に配慮させる。	
展開 (35分)	○ねらいの確認 ・アプローチ(1本) ・アプローチから3台目(1本) ・5台流し(1本) ○課題の解決 ・5台ハードル練習 ^個 自分の課題を想定し、練習する。	授業内容やグループ内の役割を具体的に提示する。 全力運動ではなく、体を慣れさせることとポイントの確認を目的に動く。	
	撮影した映像を見て、観察者からのアドバイスと自分の感覚、実際の動きを比較してハードリングにおける自己の課題を見つけよう。		
	^集 3人組を作り、 ①実施者 ②撮影者 ③観察者に 分かれ行う。 ^個 観察者からのアドバイスと撮影を見比べ、自己の課題を認知する。 ^個 上手なハードリングの参考動画と自分を見比べ、どのように改善したらよいのかを考える。	・ハードリングのポイントの確認。観察者はポイントに基づいてアドバイスする。 ・映像で自分の動きを確認し、課題を見つける。 ・QRコードから参考動画を閲覧できるようにする。	【思・判・表】 課題発見のための活動を使用としている。(観察)
終末 (10分)	○振り返り ・個人で振り返った後、グループ内で共有し、最後に自分の考えをまとめ、考察を記入する。		【思・判・表】 ハードリングの自己の課題を見つけ、改善点をまとめることができる。(学習カード)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

理科学習指導略案

日 時 令和4年10月28日(金)4校時

対 象 第1学年E組

場 所 1年E組教室

1 単元(題材)名

単元3「身のまわりの現象」第1章「光の世界」第1節から第3節

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきなどについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	光について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきから規則性や関係性を見だし表現しているなど、科学的に探究している。	光に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

3 展開(全10時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○これまでに学んだことや生活経験から、光について自分の知っていることをあげる。【個】 ○光の性質(直進・反射)について、具体的な例を出して考える。 ★【問いの工夫】「光の性質から、具体的な例や生活とのつながりを考えてみよう。」
2	○〈実験1〉光で反射する光の道筋 【個 集】 光が鏡に反射するときの光の道筋を調べ、その角度の関係に法則があることを見いだす。 ★【活動の工夫】 鏡とライトだけ渡して、どのように光が反射するか予想させてから実験を行い、考察を深める。
3	○光の反射の道筋を図で確認し、その角度の関係(入射角＝反射角)を理解する。【個】 ○光の反射の法則をもとに、鏡に反射した光がどのように進むのか作図する。
4	○〈実験2〉透明なガラスを通りぬける光の道筋 【個 集】 半円形レンズにいろいろな角度から光を入射させ、その前後の光の進み方を記録することで、光が透明なものを通りぬけるときの光の道筋を調べ、その角度の関係に法則があることを見いだす。 ○条件を変えて光を入射させることで、光の進み方(直進、反射、屈折)は境界面に対してどのように入るかで変わることを意識させるために異なる色のペンを使って記録する。
5	○実験の結果を確認し、光の全反射や屈折の法則性を確認する。【個】 ○光の屈折の規則性を確認し、屈折が起こったときに物体がどのように見えるか理論的に考える。
6 (本時)	○光の進み方(直進、反射、屈折)の法則性を確認しながら光の進む道筋を作図する。【集 個】 ○ 繰り返し作図することで、光の反射や屈折の規則性についてふり返る。 ★【問いの工夫】光の進み方の法則を作図で確認し、日常生活の中で使われている事例をもとにその見え方を考える。

4 本時の展開

ねらい:光の反射・屈折の法則から、光の道筋を定規で正確に作図する。

時 間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○光が反射、屈折するとき、どのような光の進み方をするか思い出す ・光の道筋を作図するときの注意点を確認する。	・定規を使うことや補助線を作図することを忘れないように指導する。	
展開 (35分)	○作図 個光の屈折の道筋を作図する。 ・書画カメラで映した例題で、どのように作図するかの手順を確認する。 ・空気や透明なものに光が入るときの屈折の道筋を作図する。	・プロジェクタで問題を拡大し、どこからでも見えるように作図する。	【知・技】 入射角と屈折角の法則を理解し正しく作図できる (作図の冊子の正答率)
	日常生活の中で、光の性質を感じる場面を探してみよう。		
	○作図から考える 集カップの中のコインに対しての光の屈折について作図し、どのように見えるか話し合う。 ・これまでの作図の練習をもとに、どのように見えるか理論的に考える。 集反射の道筋から、体の全てを鏡に映したい場合、どのくらいの大きさの鏡が必要か考える。 ・全身が見えるとはどのようなことに注目し、光の進む道筋を考える。 ・反射した光の道筋を確認し、話し合い結果と合っているかを確認する	・考えのきっかけがつかめていないグループには個別にヒントを提示する。 ・回収するために、ペンで記録させる。 ・全身の光が目に入るまでのルートを考えやすくするためにマス目の大きさを工夫する。 ・頭からつま先までの光がどのように進むか注目させる。 ・鏡面から線対称の位置に自分の姿の像ができることに気づかせる。	【思・判・表】 反射・屈折の法則を基に、丁寧に作図しようとしている。 (プリントの作図)
終末 (10分)	○振り返り 個日常生活の中で光の反射・屈折が起こっているものがないか考える。 次時から、これまでの学習内容を踏まえてレンズのはたらきについて学ぶことを予告する。		【知・技】 作図や集団の考察を通じて、光の反射・屈折について理解できたか。 (発言)(観察)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。